東北の山旅（八幡平、岩手山、早池峰）

（メンバー）加藤隆一
（期間）　　令和元年（２０１９年）１０月９日～１１日

１０月９日（木）曇、頂上付近は風雨
盛岡駅６：０５　駅前レンタカー会社８：００　八幡平頂上駐車場１０：００～１２：００
八幡平頂上１２：３０　陵雲閣１３：００　源太森１３：３０　八幡平頂上駐車場１４：３０
岩手山馬返しキャンプ場１６：００

しばらく中断していた日本の主要な山の山旅を再開した。前回まで北海道の山から青森の八甲田山まで南下していたので、今回は岩手の山である八幡平、岩手山、早池峰を歩いた。

前夜、横浜ＹＣＡＴより深夜バスにて出発し、早朝に盛岡駅バスターミナルに到着した。盛岡駅前にてレンタカーを借り、雨上がりのなか、ナビを頼りに八幡平へ向かう。高度を上げるに従って天気は悪くなり、頂上駐車場に着いたときは、雨風が強く、視界も乏しいので車内に待機する。昼頃になり、やや雨風が弱くなったので出かけることにする。

天気の良い日なら、大勢の登山客や観光客でにぎわうであろう遊歩道には誰もいない。鏡池を過ぎ、のんびり登っていくと八幡平の頂上だ。誰もいない頂上の木製展望デッキにて、記念写真をとり、視界の悪い中、山々の風景を想像する。

（メガネ沼？鏡沼？）

（八幡平頂上と展望デッキ）

ここよりガマ沼を通り陵雲閣にて休憩後、八幡沼脇の遊歩道を源太森まで行くことにする。

（陵雲閣）

（草紅葉の遊歩道）

遊歩道の草紅葉を楽しみながら行くと、源太森に到着。ここからの眺めが良いところだそうだが、あいにくの天気で視界は悪い。しばらく待っていると時々視界が良くなる。

（源太森）

（源太森からの眺め）

天気は回復傾向にあるが、この先へ行くのは断念する。引き返して、見返り峠経由で頂上駐車場へ戻った。

頂上駐車場より下がってくると、みるみる天気は良くなり、岩手山の雄姿が顕著になってきた。

（岩手山）

コンビニにて食糧を調達し、岩手山麓の馬返しキャンプ場にて寒い一夜を過ごした。

１０月１０日（快晴）

馬返しキャンプ場６：００　三合目７：４５　六合目９：００　八合目避難小屋１０：００

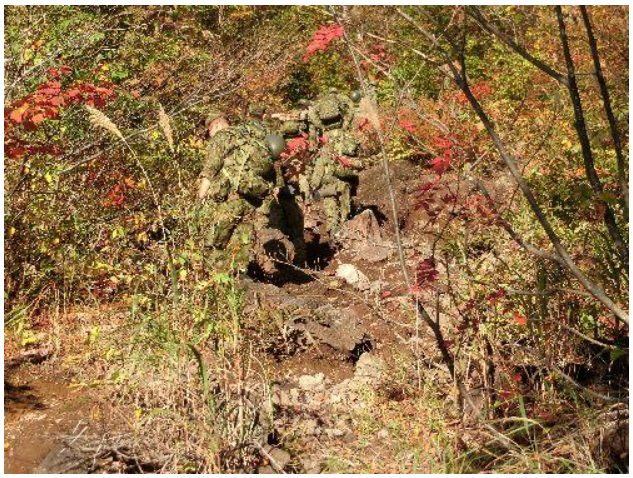
岩手山頂上（薬師岳）１１：００～３０　八合目避難小屋１２：１０　馬返しキャンプ場１４：２０

早池峰・河原ノ坊キャンプ場１６：４０　うすゆき山荘１８：００

一昨日に初冠雪があったという岩手山も今日は朝から良い天気で気温も高い。一合目を過ぎてから、後ろから自衛隊の訓練隊２０名ほどが追いついてきたので道を譲る。７時頃より近くの自衛隊演習場から大きな爆発音が頻発してくる。聞くと迫撃砲だという。岩手山は岩手県民の自慢の山でもあるが、自衛隊の山でもあるようだ。

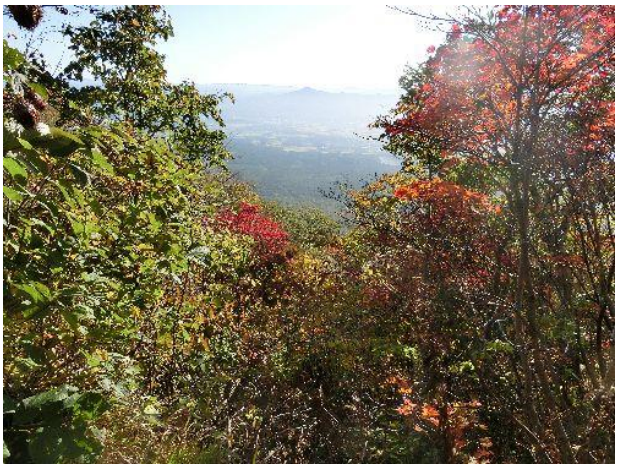
登山道は新旧に分かれるが、ひたすら新道を行く。七合目にて旧道と合流し、八号目避難小屋まではすぐだ。避難小屋前には大勢の登山者と先ほどの自衛隊が、思い思いに休憩していた。

（馬返しキャンプ場から目指す岩手山）



（自衛隊の訓練隊が追い越していく）

（快晴の中の早池峰と姫神山）



（石川啄木ゆかりの姫神山が紅葉の間から見える）

（八合目避難小屋）

八合目避難小屋にて小休憩し、岩手山頂上へ向かう。

（不動平避難小屋）

（岩手山頂上方向）

（早池峰方向）

（残雪と自衛隊）

（ついに岩手山頂上・薬師岳が現れる）

（外輪山と登山道）

快晴無風の岩手山頂上（薬師岳）からの素晴らしい眺めを堪能する。東北北部の山々がすべて見渡せるようだ。岩木山、八甲田山、八幡平、森吉山、秋田駒ヶ岳、鳥海山、栗駒山、早池峰、姫神山などなど無数の山々が歓迎しているようだ。

（岩手山頂上）

（八幡平）

（秋田駒ヶ岳）

（鳥海山）

帰路はお鉢巡りから八合目避難小屋へ、旧道通しに下山する。旧道は見通しは良いが少し荒れている感じだ。

馬返しキャンプ場より、次の目的地に早池峰に向かう。

早池峰の河原ノ坊駐車場に到着し、キャンプの準備をしていたら、河原ノ坊ビジターセンターの管理人が、少し下ったところに「うすゆき山荘」という無人小屋があるというので、移動することにした。女性３人パーティの先客がいたが、快適に宿泊した。

１０月１１日（金）（曇）

うすゆき山荘５：４５　河原ノ坊駐車場６：１０　小田越７：００　早池峰頂上９：３０～１０：００　小田越１１：３０　河原ノ坊駐車場１２：００～１３：００　盛岡駅前レンタカー返却１４：３０　盛岡駅（新幹線）１５：０７

女性パーティ出発後準備をしていると、八王子から来たという青年が到着した。「奥鳥沢」という早池峰に突き上げる沢を登るという。

小田越一帯は駐車禁止なので河原ノ坊に車を置き、小田越に向かって舗装道路を行く。曇空でガスがかかり視界がない。

小田越にて、登山届を記入する。先行者は１０人ほどか。

（河原ノ坊駐車場）

（河原ノ坊コースは登山禁止）

（小田越への道）

（小田越の登山口）

（しばらくは木道を行く）

（やがて蛇紋岩の転がる登山道）

稜線にでると、風が出てきて、雨粒が打ち当たってくる。以降、雨具を着けて登ることにする。

五合目御金蔵までは視界もなく時折雨が当たる天気だったが、五合目を過ぎると視界が開け、時折、陽が差すようになる。

（五合目御金蔵）

（頂上が見えてきた）

（八合目の上段はしご）

（八合目の下段はしご）

（剣ヶ峰への分岐）

（枯れているがハヤチネウスユキソウか？）

やがて、憧れであった頂上に到着。天気がまずまずということか。結構遠くまで見ることができた。しばらくすると、出発地「うすゆき山荘」で別れた八王子からの青年が「奥鳥沢」を登って来て到着する。比較的簡単だったと言う。お互いに写真を取り合う。

（八王子の青年に写してもらった早池峰の頂上）

（岩手山方向？）

（小田越コースの尾根）

（頂上の避難小屋）

帰路は同様に小田越コースをとる。
小田越から振り返ると、早池峰はすそ野を紅葉にまとい静かに見送ってくれた。

（紅葉に染まる早池峰を振り返る）

盛岡駅前にてレンタカーを返却し、１９号台風の動きを気にしつつ、新幹線にて帰宅の途についた。

（以上）